

「アホカイナ」

新吉は壇を降りた。

福田正夫が飛び付いて来た。

巡査が劔を擬して新吉を引つつかまへようとしたのだ。

それから二三人の學生と一緒に地下室の食堂へ行つた。

ライス・カレーやチキンライスを食つた。

聴衆もぞろ／＼這入つて来てゐた。

皆不思議そうに新吉を見た。

「僕はあなたのやうな氣持になればと思ふのですが、

此の帽子を僕が毛糸で編んだのです、あなたに上げませう」

長髪の若い女を連れた青年が、新吉の傍へ寄つて来た。

新吉は早速其の帽子をかぶつた。

學生の渡して呉れた紙片には、